

新基地建設工事強行再開

全国の平和フォーラムの仲間みなさんに、辺野古新基地建設反対の現場から、新型コロナウイルス感染症が収まらないなかでの活動に敬意を表します。

沖縄は記録的な豪雨が続き梅雨も明け、連日猛暑が続いています。九州をはじめ各県での豪雨による被害の報道に心配しています。昨今の自然の怒りは人間の想像をはるかに超えています。

こうしたなか安倍政権は、県議選が終了した5日後の6月12日から新基地建設工事を再開しました。



新型コロナウイルス感染症が終息し、沖縄においても安全宣言が出されたという状態ではありません。142人の感染者が出て、工事の作業現場からも感染者が出たために作業は約2か月間ストップしていました。

工事再開に抗議するオール沖縄会議は、座り込む仲間たちの「命」を第一に考えた行動を提起しています。座り込む仲間たちの間隔を2メートルあける。機動隊員との接触を避ける。そのため機動隊員の行動を見ながら自主的に立ち上がり歩道に移動する。このように、県民や座り込みに参加する全国の仲間と機動隊員らが新型コロナウイルスの感染から「命」を守ることに重点を置いています。感染予防のため仲間は全員マスクを着用しています。キャンプ・シュワブ基地に関わる海兵隊兵士、警備にあたる日本の警備員、基地周辺で監視する国土交通省の労働者、岩石や土砂、建設資材を運ぶ車両の運転手など、全員がマスクを着用しています。

命を軽んじる防衛省

ところがゲート前で警備にあたる民間警備員約60名は例外です。ゲート前に立ちふさがり、並んでの行動はすべて軍隊調で、20人がダブルで立ち全員が肩もつ

かんばかりの「密」であり、マスクはしていません。

許せないのは防衛省です。名護市内での感染者は辺野古新基地建設にかかわっていた労働者です。防衛省が雇用した労働者の中から感染者が出たにもかかわらず、民間警備会社の労働者にはマスクをつけさせないのは理解できません。この警備員のほとんどが、県外から採用されている年配の人たちです。防衛省は現場で働く人々の命を軽んじているとしか見えません。

沖縄県議選の結果が6月7日深夜に確定しました。玉城デニー県知事とともに闘う与党が過半数の25議席を獲得し勝利しました。安倍政権は自民党の議席が増加したと喜んでいるのですが、自民党の票は前回選挙よりも下落しているのが真実です。新型コロナ対策、検察庁法案などによる政権支持率の下落は事実であり、新聞報道によればポスト安倍への予想が書かたでられています。そうした全国的な民意は変わりつつあります。

イージス・アショア白紙 新基地と違う対応

そうした一方で、秋田や山口で進められていたイージス・アショアの配備計画が白紙となったことと沖縄の現実を照らし合わせると、なんと対応に違いに腹立たしさを覚えます。これは「沖縄差別」そのものであります。

辺野古新基地建設は、辺野古と楚久の2本の活断層、90メートル越えの超軟弱地盤、大浦湾でジュゴンの鳴き声を観測し生息が確認された。7万8千を超える群体のサンゴの移植問題、建設予定地周辺に存在する基準を超える高さの建造物など、多くの難題を抱えており、そして建設費は政府発表でも1兆円に迫る額に達しています。新型コロナウイルス対策で国民の命を守るため、病院、医療設備、医療関係労働者の充実などにこそ資金を回すべきです。人を殺すことが目的となる軍隊の施設ではなく、人々の命を守ることに資金を投入し、新基地建設は今すぐストップさせなくてはなりません。無理、無駄、莫大な資金がかかる辺野古新基地建設をストップさせれば、沖縄県民も全国民も大歓迎でしょう。基地建設は必ず止めることができます。確信をもって闘いに参加していきましょう。